

ミズベリング樋井川をととした分散型水管理のためのコミュニティの形成

九州産業大学 学生会員 下田大貴

九州産業大学 正会員 山下三平

1. はじめに

福岡市を流れる樋井川の流域では、流域治水を実践するための市民主導の活動である「樋井川流域治水市民会議¹⁾」が平成21年10月から平成27年12月まで実施された。その後、これを日常的な活動として展開するために、国土交通省が進める「ミズベリング」を活用することになった。本稿では平成28年に開設された「ミズベリング樋井川」のこれまでの取り組みを追究する。本研究はミズベリング樋井川の展開を検討することで、多様な水管理に役立つ知見を得ることを目的とする。

2. 方法

まず、全国で活動を展開しているミズベリング団体を Facebook や Web を用いて調査を行った。また、ミズベリング樋井川の取り組みやコミュニティの形成を調査するため、ミズベリング樋井川の Facebook ホームページや会議の参加者にヒアリング調査を実施した。

3. ミズベリングの現状について

全国のミズベリングについて何ヶ所で活動が行われているかなど事務局に、平成29年12月に問い合わせたところ、「全国で活動が行われていることは把握できているが詳細など分からない」と回答を得た。そこで当該ホームページ²⁾、Facebook など利用し団体の運営、活動を独自に調査したところ45団体確認することができた(図-1、表-1)。図-1はミズベリングの実施主体の構成を示したものである。ミズベリング事務局が推奨している「行政+企業+市民」の構成団体は7団体となった。また樋井川と同じく「市民+市民団体」で構成されている団体は2団体であった。

表-1は活動の目的をまとめたものである。水辺の活性化だけでなく、減災や治水対策、ビジネスとしてミズベリングを活用している団体もあるが、今のところ少数であることがわかる。一方、樋井川では減災や治水対策について考えている。しかし、市民主導でこのような活動を行っている団体は他になく、市役所や地

方整備局の行政主導で活動を行っている。

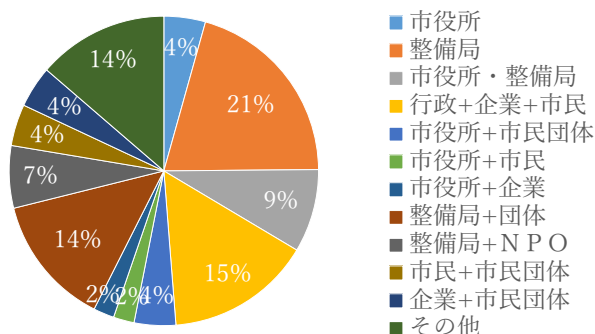


図-1 ミズベリングの実施主体の構成

表-1 ミズベリングの活動目的

目的	団体数
水辺の活性化	45団体
減災、治水も視野に入れる	7団体
カフェなどづくりビジネスモデルも形成	8団体

4. 樋井川流域治水市民会議からミズベリング樋井川会議へ

(1) 樋井川流域治水市民会議

平成21年中国・九州北部豪雨での水害を契機に、総合的な治水対策を行うために市民が主体となり、大学、行政、企業、NPO等と連携した取り組みを行った。これが「樋井川流域治水市民会議」の発足である。平成27年までに45回の会議が行われ、雨水タンクの設置や水害避難ガイドブックの作成など一定の成果も得た。しかし年月が経つにつれ参加者の減少や固定化が目立った。水害対策という非日常の出来事への対策を日常の生活空間に取り組むことや、多くの住民が興味や関心を得て、気軽に参加できる場の作成が重要と考えられた³⁾。

(2) ミズベリング樋井川設立とあまみず社会研究会

平成28年5月、樋井川流域治水市民会議のメンバーを中心に、新しい市民の集いの場として、ミズベリングの活用を決定した。ミズベリング樋井川は、JST-RISTEX⁴⁾の研究プロジェクト(分散型水管理を通じた、風かおり、緑かがやく、あまみず社会の構築)「あまみず社会研究会⁵⁾」が中心となり、活動を始めた。平成

29 年 12 月までに 16 回の会議が行われている。その概要は表-2 のとおりである。会議では水辺や雨水についての学習会、会議以外の活動でも水辺で乾杯や絵本の読み聞かせ、雨水貯留施設の見学など行い地域との交流も行っている。この間に、より多様なつながりが生まれつつある。

表-2 ミズベリング樋井川会議

会議	日時	会場	参加者	内容
1回	2016年4月23日	そば千力	25名	ミズベリング樋井川設立
2回	5月27日	長尾公民館	31名	水辺で乾杯概要説明
3回	7月1日	長尾公民館	33名	水辺で乾杯事前準備
水辺で乾杯	7月7日	各会場（5ヶ所）	約200名	全国一斉行事
4回	8月31日	福岡大学	33名	水辺で乾杯報告会
5回	10月28日	ほんやカフェにじろ	37名	学習会：雨水浸透、活用の計画
6回	12月22日	上長尾テラス	23名	ブレ樋井川さんぽ 学習会：雨水タメルンジャーZ
7回	2017年2月25日	あめにわいセンター	15名	あめにわいセンターのデザインと機能
8回	4月22日	上長尾テラス	20名	樋井川さんぽ 活動報告
9回	5月19日	鳥飼公民館	12名	水辺で乾杯概要説明
10回	6月30日	ほんやカフェにじろ	23名	水辺で乾杯概要説明
水辺で乾杯	7月7日	各会場（3ヶ所）	約160名	全国一斉行事
11回	7月28日	コミュニティスポットわくわく	16名	水辺で乾杯報告会 学習会：九州北部豪雨被害状況
12回	8月24日	カメラ小僧	14名	学習会：雨水活用について、相国寺の枯流調査の結果について
13回	9月29日	さくらの木	19名	活動報告 学習会：樋井川のいきもの
14回	10月26日	上長尾テラス	13名	活動報告 学習会：樋井川村の紹介
15回	11月20日	さくらの木	13名	活動報告
16回	12月19日	上長尾テラス	13名	学習会：魚部の紹介

(3)ミズベリング樋井川のコミュニティ形成

ミズベリング樋井川では、非日常的な出来事への対策を分散型水管理による流出抑制だけでなく、住民同士のコミュニティの形成により減災対策を行うことを考えている。その過程を明らかにするために、誰がどのような繋がりをもってコミュニティが形成されていたかを調査した。その結果が図-2 である。ミズベリング樋井川のコミュニティの展開は、旧市民会議共同代表の A さんがミズベリング樋井川の立ち上げ会前日に不動産経営をしている B さんを誘ったことから始まった。その後 B さんが樋井川周辺で気になる活動や面白そうな活動をしている人を誘い B さんから地元賃貸経営者 C さん地元店舗経営者 D さん、などつながりができた。ほとんどの人が地元の人だが城南区出身ではない店舗経営者 E さんは知らない地でなんらかの活動をしてみたいと思っていてところ B さんから誘いがあった参加した。地元菓子店を営んでいる F さんは元々福岡市で別の活動に参加しており、ミズベリング樋井川を知り参加をした。元々樋井川流域に住む G さんは D さんの紹介で参加。また、知り合いであった地元店舗経営者 H さんを会議に誘った。一般市民でミ

ズベリングの活動を認知して参加した人は一人のみであった。また、各自治体の方も参加回数は少ないが会議に参加している。現在の参加者は市民会議の頃より少ないが、これは学生参加の減少によるものである。したがって、ミズベリング樋井川の活動も地域に浸透し、より多様な参加者の繋がりが広がっていきつつある。

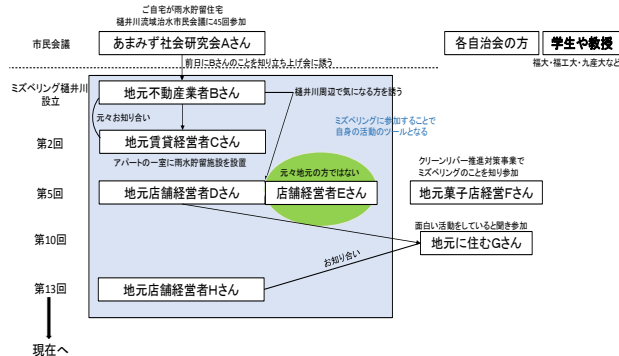


図-2 参加者の関わりの展開

5. まとめ

ミズベリング樋井川をとおした分散型水管理のためのコミュニティの形成をまとめると以下ようになる。
(1)市民主導で減災や治水対策について考えている団体は、全国的に少ないことがわかった。
(2)2017 年 12 月までに 16 回ミズベリング会議が行われ、雨水貯留や水管理の学習会を通して、多様な人々がコミュニティを形成して参加し、分散型水管理についての興味・関心が広がっている。

今後はさらに、会議に参加したことのない参加者を誘いコミュニティの輪をひろげ、一人一人が分散型水管理の意識を変えることが重要であろう。その展望は開けつつあるように思われる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、JST-RISTEX の研究プロジェクト「分散型水管理を通じた、風かおり、緑かがやく、あまみず社会の構築」の支援を受けた。謝意を表す次第である。

参考文献

- 1) 樋井川流域治水市民会議
<https://sites.google.com/site/hihikawashiminkaigi/home>
- 2) ミズベリングプロジェクト
<https://mizbering.jp/>
- 3) 松木沙弥香：日常的な災害対策に向けた樋井川流域の「ミズベリング」の試み，九州産業大学卒業論文，p14，2016.
- 4) RISTEX 社会技術研究
<http://ristex.jst.go.jp/>
- 5) あまみず社会研究会
<http://amamizushakai.wixsite.com/amamizu>